

広告

前浜で揚がったばかりの海の幸が並ぶ漁港朝市

4月は、漁港朝市がにぎわいをみせる季節です。石狩には、「いしかり湾漁協『朝市』」と「あつた港朝市」「浜益ふるさと市場」と朝市が3つもあり、いずれも多くの人たちが朝早くから足を運びます。

ヒラメやタコ、ソイ、ホタテといった春ならではの海の幸が並ぶ中、この時季の人気は何といっても真ガレイや黒ガレイといったカレイ類。水揚げされたばかりの新鮮で、しかも市価の2~3割安で購入できるとあって、朝市が開くと同時に品切れになってしまうこともあるそうです。

「あつた港朝市」では今年から、例年より1カ月早く、3月1日からオープンして、通年営業を目指します。あつた港朝市部会長を務める上山貴彦さんは「たくさんの方に生きのいい魚を買って喜んでもらえればと思い、4・5・6月の第2日曜には全品2割引きで提供します!」と笑顔でPR。

生きのいい魚介類は、見ているだけでも楽しくなるもの。さばき方や調理法をお店の人からアドバイスしてもらったり、場外の食堂に入って舌鼓を打ったりと、漁港朝市には魅力がいっぱいです。ドライブも兼ねてぜひ出掛けてみませんか?



◀午前6時、厚田漁港での水揚げ風景。



▲その日の目玉は、行ってみなくては分かりません!

▼「あつた港朝市」では、ドライブがてらに訪れたという札幌からのお客さんがカレイを求めていました。



▲お店の人とのやりとりが楽しい漁港朝市。

※各朝市の詳しい情報は、17ページにあります。併せてご覧ください

ニセアカシアの棘は危ない

◆公園での昼下がり、やわらかな陽の光をうけ日向ぼっこを楽しむ子連れの二団、その姿に安らぎを感じないものはないであろう。まして甘酸っぱい香り漂う「ニセアカシア」の花咲くころとなると、北原白秋の『アカシアの花が咲いている』のひとつも含みたくなる。 ◆過日9年目を迎える「市長室開放日」での語らいに、ニセアカシアの繁殖による危険性が話題となった。特にひこばえ^{※1}の棘は子どもたちにとってこの上ない凶器、広報で危険性を知らせるべきとの訴えであった。

◆明治8年ウィーン万博の際に種子を持ち帰り、全国に広がったもので、棘は托葉^{※2}の変化したものである。石狩の公園にも随所に見られる珍しくは無い樹木である。ひこばえの処理と枝の剪定には取り組むとして、さて樹木を根こそぎ抜くとなると二論に分かれるだろう。せめて児童公園は除去して欲しいとのことである。

◆ところで、ニセアカシアの棘を危険であるとして広報に掲載すること。自然と人との共生に不可欠な伝統的情報が途切れていることに、いささかの驚きを持ちながら妙に深刻になった。ニセアカシアの棘は偶然と重なりと凶器ともなることは否定しないが、これをお知らせしなければならぬ現代社会の自然との乖離^{乖離}。そこで本稿を起筆するに至った。

(市長)

※1 ひこばえ 切り株や木の根元から出る若芽
※2 托葉 葉柄の基部付近に生じる葉状等の小片